

契款

雜別奇

羈旅奇

物名

古今集遠鏡

三

三





戸川



古今和歌集卷之七巻後

賀歌

歌一らび

よみ人あ



永君ハ子そりハ子そふまにれるのいふふとけりて若れむとそ

○ヨカイ石ガ大キナ岩ホニナツテ苔ノハエルテ千年モ万年モ

由繁昌テオイテナサレコチノ君ハ

つら<sup>海</sup>の淡れまのさざけのぞくつゝ君がふ年乃あまらぐべふまむ

○海ノ淡ノ砂ノ粒ヲダシクニカクテ君ノ長寿ノ四年ノ粒取ニセウ

ふやの山さゝの破よまむむ子も君が代をバハふまをそねく

○シホノ山サゲテ破ニ住テ井ノ鳥ノ鳴ヲキケバ君ノ代ヲヤチ多クトサ鳴マス

○巻後三

〇一



コガよしの天宮なりよふとるしそくくともめおきてはあひ知りせよ

○ワレガ長命十ヨハヒラソコモトへ進せウホドニコカラソコモト八千世ノヨハヒノ上へハワレガ齡モトリソヘテソコモトニトメオカレタラバ後ニ思ヒダシグサニシテおラカウヲ名ヒダサツヤレ 打守よらー 御材よらー

仁和寺傳傳正遍照小七十の笑好ひく時の浄さ

かぐーつとふもかふもをぬぐーへて天が八よ代ふりよーもぐぬ

○朕モドワニテナリ尼共ニ長命テ居テ けなトホリニ又イクタビモク 賀ライハウテ進ニテソコノ八千軍ノ笑ニドウゾ逢ウヤウニシタイトカナ

仁和のみやがはみふおー ぬーらふふ心をむ乃 八十の笑りーちらふよば杖よはくそりこまふはんく

かめをばふりりてとるふ 傳正遍照

浄をり浄祖母あふーおの假字をまべきん

らんやぬの神のきるときむほくくーに子年の梅もらんぬべらぬり

○ハ杖ハ一トホリノ物トハ尼エヌ大カタ神ノ西キリナサタ杖デアラウ松レバ

此杖ヲツクカラニテハ千年ノ板ニデモ心ヤスウ越ラルデアラウト思ハル

ほり門のおひまうらぎこの四十八笑九條乃家やて ーけふあふとる

梅をちりぬひらもの色あつくとほら登こけある道ちうがふら

○四十二匹ナリナサレタバ 初老トナテニコカラ老カコウト云チヤガドウゾコヌ ヤウニシタイモノナバソノ老メガ来ルをラフニヨウヤウニ用ニニ 梅をヨ



夕トナリアウテソコラガ霧ウ曇ルヤウニセイソニタラソデ道ガ霧ウテ  
朱光ガフニヨウテモホトニカハハ方紫小多キ廻疑ハのカハハ  
ウビと此のみこはをばのよとちのたをを大井コト  
一キヨ日ヨウ  
きのこれより

いとむも心祖母よこおをまごし

か光のを此山のつと子ととめて落るは乃ろろとちよは救うと

○は大井ノ近所ナ亀ノラノ山ノ岩ノ子ニソウテオチルはノ白玉ノ多イ救ハ  
心寿命ノ千年ノ救カヤ 山ノ名サヘメタイ亀山ナレヤ

さごやらのこまのきさいのちれ五十は笑とてまつり  
らる浄屏風お梅の花はちるあふ人の花をさるかこ

かきふはよを候 藤原真風

つづ〜ふさ候月日ハおもひを花をさるをまごをくまき

○ナニ氏ナニタゞこテイク月日ハ多イヤラスクナイヤラ 何氏思ハスニウかくト  
ニテクラスガイヤウニ面白イ花ヲ見テクラス春ハヤキツウ日救カスクナウ思  
ハル、 竹材ホまねをく形きふをさるを思へをさふー月日ハ  
多うりらる〜始めてあがゆるさあ〜といつハうねらご  
かややをさる七十七の笑乃ろろ〜流の屏風  
よみ〜かきり候 きのほ〜ゆき

まろとばをさるふさ〜梅のを天がふ年のあざ〜とご  
○まがクバハ心へマツバニサク梅ノ花ヲ君ガ千年ニテノまろ



ハカザレヤトサ存ジニスル

素性法師

いや〜よりのきわ〜げをき〜も子孫のぬし君ふ始りき  
 ○千年モイキタ人ハ昔モアツタカナカツタカハシラヌケレ厄タトヒ今ニテニ  
 ハサウヌ人ハナイニモセヨ千年イキルタメシヲ君カラハ始メテサレアラウ  
 婦〜そ思ひおきてしめぞや万代ハ神ぞきりしむにが天のよめ  
 ○吾君ノ内年ノ教ヲドゾゾ万年ニテモト寐テモオキテモ終ヒマスルコト  
 ハ人ノ性ニソソ及バズ凡神ガサモ通りニハカラヒナサレウサ家君ノタメニ  
 神ぞきりしむに万代ハ神ぞきりしむにが天のよめ  
 そ〜いかにあそりて〜つひにふらふらあそりて〜いかにあそりて〜

友原三善が六千九百五十年 左原をげを原

はるか昔もふ年けちいふ〜ぬふあぬふよゆりせと〜む

○鶴亀八千年ノヨヒラタモツ物ナレドソレモノ千年ノ後ハドウアル

ヤラシラスガ ぎねハ千年ゴザツテモマダソレデハ十分ニハ存ゼズ其

ウヘモニタ存分ニ長ウ久シクハ無事ニテオキマセウ

此方ハ何人左原と記するがともしよ

よ〜みよのつねなりがよ〜むらぬふむむを先り

あつりしよみゆり ぎせむあしし

美代をす門よぞ君成ひしつゝ子孫の信ふとむむと思ふ

○君八万年ノ内壽命ヲ待ツナバソノツト云名ノ松テサオイハヒヤシ



ニスルサウシテツノ千年モアル松ノカケニ鶴ノスムヤウニワタシモ君ノ  
千年ノオカゲヲ蒙ツテ共ニ長ウ居セウト存ジマスレバサ  
能ク小ほくしつ小鶴をもせりしつりしつりまふ  
下白くくを鶴ふよれりしつり

なつしつみぬの右えぬ夜京新片の四十賀スーリ  
あふはあのをえけりしらの屏風ふありりりり  
春日也ふりあなほみつゝあ代をいふらりりりりり

○山賀ノタメニカウ春日野デあ菜ラツシク心ノ内テあ壽命ヲ万年  
マデトオイハヒヤス心程ノホドハ先祖、此春日ノ心作ガサ納受テ  
サレテ心守リナサルデゴザラウ あらむのこ上ふりりりり

山さみみやあふんあはらるるをさるるのゆきてをぬりぞあき  
○高イ山デまノアタリニ見エルアノ桜むガキツウヨイ花チヤガ  
山ガ高サニドウモアソコハエイカ子バ ア、ドウゾ一枝折テキタイお  
チヤト思ウ心ガ 毎日アノ山ヘイテアノ桜ヲラヌ日ハサナイ

夏

あぐしにあけあふほらぎんこまのまをあぶもあふ  
○イツノ年モ同じ声デナケバナモメツラレイ声デハナイニアノ野公オ  
ホクノ年毎年マテモサテモアアアカナオアアアアアアアアアアアアア

秋

まみのまのねを秋風吹くふらふらあきあきあきあき



○佐ノ江ノ松ヲ秋風ガサアトフクトツノマドオト浪ノ春ヲ  
ウチソヘル

ふるふくく内和の川春のちぬりし山の木葉も色まきりゆく

○佐保山ノ木葉モ色ガマサウテキタトホリナレバ今マデモウ  
一  
佐保川ノ春ガタツタサウナ。秋ニモ多岐のこころに考りしも

秋ノまじり色も加へぬとて乃に紫霞風ぞかへり

○秋ニツテモ木ノ葉ノ色ノカラヌト云常磐山チヤニヨツテ山ニ  
紫  
ナイニヨソノ山ノ木葉ヲ風ガ吹テ来テサ 此トキハ山へ借スワイ

冬

あつちねゆりあつちねみこしけく山下風ふむぎとらふとま

○け吉井ノアタリトコモカモ白雪ガツタ時ニ山ノ風デフモトハ花ガサ  
あワイ

春宮けうまれ多へりあつちねはわりてよめ

典侍藤原よるふねた

あつちねまき日れあつちね日ハくりあつちねあつちねへらぬり

○春日神ノ所末ノ夜系氏ノ中テモ上モナイ内方ノ姫君ノ内腹ニ  
テキマシナサツタ若ク様ナレハテウドソノまき日山ノ高ウウチハレテ  
クモル雨ノナイヤウニ内行末イツマデモクモリナウ天下ヲ照シアソグステ  
アラウトなジラレミス







○ソナタ身ノ守リキヤト云ウテ添ヘテヤルハ母ガ心バカリヲハユクサキ  
ノ冥所クデモ ドウゾトノテトサルナ トホシテヤツテトサレ

さごと此のみこはありてぬぢりつおきさうやぐ近  
江のまけふやかりつるゆふうぬ乃そまじまじし  
水はゆるくゆるる

きのこききき

りふりかきりあふこしとどもあやゆけぬむ神のあはき  
○今日別レテ明日ハキキニ又アハルホド近イ近江ふキヤトハ思ヘ  
カハツタモノデ別レトイハバ悲シイ ア、おガイカウフケタヤラ 神ガ  
あデヌレタワイ イヤクコレヤ後ギヤワイ  
あーんあかりきさうふよまきくはるるー

うさ山あつとくはきけどまき屋あらしわうき形がきくさ  
○おまニハカヘル山ト云山ガアルト云ーナバモ名ノトホリニオツケ  
るデカヘラツシヤラウトハ思ヘドソレデモアノ屋ノ立テアル方ヘ立テ別  
レテイカニヤツタナラバ悲シカラウ

人のうぬろもねむけあしよめ

きのほしゆき

きむむきーおものをいせはらち形を後ハらぢちきむ  
○ナゴリラシウ思バマダタツシヤラヌウチカラハヤハヤウニ思シイお  
三 立テイカニヤツタアトデバドノヤウチコチガスルデアラウ

ともぢぢらけ人のあまらうきさうふよめ



左原志保はる

りかきてハほやをへんし思へやうの足がくふかひて遠き  
○別レテカラハまいたラダテ、久ウアハヌーチヤガトウユカシテ  
一ダカウシテ居チガラカ<sup>カ</sup>方デハハヤ今カラモウ急シウ思ハル、  
あづははるこまかりはる人よまてつらばりま

いづこのつらやま

思へども方ばしわきよバ先ふえぬを考ふあづてぞや  
○ナバウカゴリヲシウ思へ人ノ身ハニツニ分ラヌおデドウモツイテハ  
エイカ子バ目ニハヌエヌケド心ヲサ其方へツハセテヤリマス  
お坂うしんをさかきらるあふよめ

。ふ秋云人をさうさういひて人よあつとつりやも。回ドてん。海をすけずふ  
人の様りふさういふ人をもいひあはれふ人よあつとつりやも。回ドてん。海をすけずふ  
あつとつりやも。回ドてん。海をすけずふ  
わてまきこれ旅のうらやまきく秘むもこれらマがゆく所のみまきん。  
なふもねあづを

何ふ坂の雲しほききおあはれあづをいひて

○アフ坂ト云ガサシクも名ノをリチガヒナイおナラバ人ニをウハズチヤ

別レウハズハナイスレヤ沙リ多イニ別レテユク此人ヲアヒハラスをウヤウニ

ハアテトツメヨ 竹材まきしつらといふにうねるは 。ふ秋云。竹材抄ハアと  
いふさふあづて。ニニの白を流されども実を人をもむつハ。あつとつりやも。回ドてん。海をすけずふ  
あつとつりやも。回ドてん。海をすけずふ

歌いねば よみ人あづ

かすねるの口はきかじけあつのおまきにしゆきばあづをいひて















こもろかきふまかりらふうのそこのごもさけぬ  
うびらうつでふよめ

もろのふらうとどめよきるどぐら秋のそまは情くやあぬ

○トモぐニウテドウソオトヤセキリぐスヨ 今秋ノ別レ時分ニオ  
ワカレヤスハ コレホドナゴリヲレイニソチハナコリヲシウハナイカイ

年、りやむら

秋考れものふましく、月かき形をばとぬ思ひふらひや海む  
○アノ考ノまヤウニキ根モ共ニ立テ出テイカヤツテ別レヤタナラワ六今  
カラハアノ考ハレマウニ心ガズニイウモオナツカレウ思ウテタテルデゴザラウカイ  
原き孫がほくく人ゆあみむくはかりきつふや戸

ざんせしこわきまきしこあるとりほししめ  
あめめ

のらむふふからうああばらうりきろくおしかまし

○今サハ心カセニナツテ死ナズニ居ラレ、おナラナニガサテ別レヤタガコホドニ  
想ニカラウグイ人ノ今ハ何ノ時カニテナイモ知ヌニヨツテサ 想ニイワイノ

ふざねよりけちびのちとまておろり小人くやわりて  
うかりがてふしこわきまきしみるふらな海

みらめやのき

人やらのきわくふてしきししひてさかちりちひ  
○人ノサセル語デナイ我心カライク語チヤニタイガイナラナラモウイキ



トモナイト云テドレヤカヘラウヅ

よはこもよりあかり秘しきねがひひらきをりり  
しみもあは

あつてききぬーんろふーいさぶかきぬひんさもあききぞ

○ドコミテモイツシヨニキタイトシタハレテコレもキタ心ニ着テアル我身チヤ

ニま心ガトコテモキねニツキウテ糸レバコレカラぬルトキニハけガハ  
心トハナレテ心ノナイヌケガラチヤニヨツテカハリナニハモエシリマセヌ

あふこもをうむさけきけふまありはあかありふ  
お板もあゆまゆりまゆりま けしゆき

かひこもしてふもゆくろひ板もくぬめあふあふしとまけ

○此坂ハ逢坂ナレバ人ニ色ウハズチヤニけ板ヲコエツソシテニア別レテ

イカツシヤルカ コレハを坂ト云名ハねモシサウニケエテねニナラ  
ヌサ名チヤワイコレガ人ダノメト云モノチヤ 人ダノメトハ 人ニねモシウ思

ハセテオイトソシテまをリデモナウテムダナララエマス

○子秋云かりとハを板をこころうらふかりまうれゆくろし  
しきこころしをこころあしきまどろくまふらうしきん

あふえねちぬまがあしきありきうぬれまふむけ  
ろしきをうら

美がゆくこころあしきぬもゆまけまあしききんげいゆき

○半箱ノトラウシヤルゆまノ道ハ拙者ハ不素問ナレバ 白山ハモトヨリ

ノ一 惣持ノ源イふチヤト云ナレバ 半箱ノトホツタイカツシヤツ







○トテモるるのニ候、ホドナラバ、君跡リ多ウ思テオトマリナサルヤウニ  
嘆<sup>イ</sup>ダガヨイソレニ君ヲオカヘシヤスノハ、花ノキコエノデハナイカ、<sup>花ノキ</sup>  
コエノチヤワサオカヘシヤサウハナイワサテ、<sup>結局又</sup>花ヨソチカタメニモウ  
イコデハナイカソチガタメニモウイコチヤワサテ

仁和のみやがみふおと一ゆ一はる時ふぬる花散  
ゆらんとふおび一さ一てかありほひるによる花

兼盛法師

わうぞあてふさく海ありふさふさあまなると下とらるるの  
○ノコリオホウテ別レヤス拙傍ガハ海ガ流ニソウテ流レルコレデハ  
川下デハあがマシタト見エルデカナアラウ

かひちるのつらふめ一しりきと日あやむいあていへへへ  
あのつらあていさびあまの海でけりて海よりあはるる  
きりふさうらまをさめてし けいゆき

秋萩のふとがふよめ一せととをばしてを一とこそ思へ  
○アノ萩ノ花ヲ此雨ニヌラシテシララカシテシマウノハキツウ惜ウ思ヒマ  
スレバマダンレヨリモキ極ノけぬニヌレテは海リナナルノニ別レヤスノガ  
サナホサラゆ名跡ヲシイコチヤト存ジラレマスワイノマアマトツアガ  
リマセソノ内ニ雨モヤミマセウワサテ

とよめりきりかへし 兼盛法師

をしひひんのゆびあはまふ秋の時あはるぞゆりふさる







○此まぢぬハト<sup>ニ</sup>テモフルホドナラバマツクラニナラテマツツヨウフツタガヨイ  
ソシタラ<sup>四</sup>けぬライヒタテニシテみレテイク君ヲトメウニ

ちひくゆく人もとどきむ様をいつもいそとゆきよもち地

○ナボトメテモト<sup>ニ</sup>ラズニヒテかレテイク人ヲトメウニ椀花ヨ道ノシメヤ  
ウニチリウツデドレガをギヤトアノ人ノ迷ウテエカヌホドチツテクレイ

とどきぬとどきぬとい一舟のちやあく物つひく人のみ  
れりゝをうふようたるはゆきゆき

むさぶものさげくふぐさ乃井れあぐでもくふふまぬる式  
○惣沖はヤウナ山ノシツハ浅イ物チヤニヨツテ飲ウトモウテスクハバミ  
よカラスルキトデギキニ<sup>ミ</sup>ルニヨツテ思ウヤウニスクウテノ<sup>レ</sup>又飲<sup>ミ</sup>タラヌ

物ギヤカテウドも色リニサテクア沙リ多イニアノ人ニ分レタヘカナ

そふつわりくくろくまふおをいつき<sup>は</sup>てわう色  
りんとくはよそしを色ととのつ

トれ帯のみちハかじぐくまもれ先ぐりても色むとぞ思ふ

○アヤヲスルニウシロアテタ所デハ<sup>端</sup>ノ方ガ面方ヘワカレルケレ<sup>前</sup>マ  
ハシテムスブ取デハ又イキアウ物ギヤガも色リニ今イク道ハカウ別  
ニワカレテイク<sup>出</sup>又ウノウチドウシテナリ<sup>合</sup>ウフサテ







みやとぞしりみみのれ京づつと川を流さしあらもめせや

○今日京ヲ出テはミカノ系ヘキテアノ向ヒニエル山ハ麻背山ガヤガク泉

川ノ川風ガキツウキイニアノカセ山ヨオレニキルモノヲ一ツ借セ山

○秋ニの白れつひくを麻背山をみるもの  
つひくつひく。澤ハさきつひくなり

ほのぐとつひくは浦乃の舟小舟がくれゆく船をぞ思ふ

○夜ノウスクトアケテクル船ガニ海上カラスレバアノ向ヒ明石浦ガ船ガ

デカクレテエヌヤウニサツテイクアノケシキヲ 志ウヨソニテエテイク

ハ船中ノ心ハサテモく心ボツイおガナシイコヂヤ

けあハつゝ人のいそぐかきめもの人々後がく

此のハお関小出されとぞおく今昔物持よ小舟並つのもろと

のきこるをよほしかきほしはるる海を船がらよあて

あふハ下向とむつりてあわてふらる船今昔物持を

世にのきふおつり。船材のむれえごりあきで船がくれ

とつよこばよく行はるる人ほし。船がくれと海をいそぐるもの

かづれてるる船とつりあもほつらるる船はあゆてハ船ガ

ふるくれてはるの浦はるる船を海の沖よりつらん

おの船がくれゆくてくすのせごまふあは船ガにのるの浦は

かづれゆくをさつてゆく船つりあはるる人ほまはるる

あつらるる人ほまはるる人ほまはるる人ほまはるる

まきつらるる人ほまはるる人ほまはるる人ほまはるる

このちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり











かひのふくはらふきつおきつてとる

みつ孫

おぼきおぼくもいとおぼきおぼくもいつておのたおぼくもいびほぬ  
○けゴロハ夜がききサニ草へおぼがツテアルライク夜カキおぼラハラウ  
テハ子ハラウテハ子おぼキヲ枕ニシテモウハヤ何<sup>ナ</sup>なモく子タ

おぼくまれのゆまかりきつおぼぬこの浦とつてお  
よまかりて夕さらけうきりひらきおぼのふきつて  
おぼみりついでおぼく 孫系かひをき

夕ぼくよおぼつたおきびおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
○三 けニ見ノ浦ノケキヲヌタイおぼヤガヨヒハ宵月夜テダ新ガウス

ケレバハツキリトハスエヌニ 夜がぬテカラサトクトスヤウ

おぼたうおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく

おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
○け方ドモハ今日ハ一日持ヲシテアルイテヨツク天ノ川ノ川系ヘキタワイ

日モクシタニサテヨイ変キタ天ノ川ナレヤタナバタニ宿ヲカラウ  
おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく  
おぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼくおぼく



そのふりりてよせり　　きのけりつね

一とせふてあひききりて天までいよどかきと人もわびじとぞとらふ

○イヤク天川テハ一年ニ夜ヅ、出ナサル星ト云、四方ヲ待ツヤ

ニヨツテナカク外ノ者が宿カラウト云々トテモ借入モアル、イトサ存ズル

朱雀院のな〜ふお〜　　ゆ〜る時ふおふ

て〜えあ　　まが〜るお

け〜びいぬ〜も〜と〜く〜ま〜おふお紫のや〜き神のま〜

○は夜ノ旅ハ、伊修ユエヌサモ、用エぬサナダソレユ<sup>五</sup>神ノ心ニカ

セニト存ジテ即チ山ノお紫ノ錦ヲソノ、<sup>三</sup>手向ニスル

素性法師

あひきふはつづの神もき〜べきふお紫にあ〜、神やう色さむ

○神へノ手向ニハ出家ノ身モハツヅリノ袖ナリ、切リキザニテ<sup>麻</sup>

ニシテ手向ルハズナレドモ、<sup>ハ</sup>ヤウニ足るナお紫ノ綿ヲハラ<sup>ハ</sup>ハイ足テ

出テナサル、神ナレハ、<sup>ハ</sup>ヤウナキタイツヅリノ切レナドハ、<sup>ハ</sup>文ケハナ

サル、<sup>ハ</sup>イ、<sup>ハ</sup>返シテサレデカナゴザラウ、ソレユエサレヒカヘテ手向マセヌ

古歌和歌集を穿十巻

物名

うぐいさ

お紫と〜ゆきのお



いづゝ花はなづくふそんぢつうらひぎとものもめぬくうひ

○オノガ心カラスキデ 花ノ葉ニヌレナガラ ツライコトギヤ 乾カヌト云テ  
タノヒタスラアノヤウニナクノハドウ云コヤラ

ほそぎん

くべきぢいどまじりぬめやほびてぬくもをたれんをまよひ

○郭公が待ッ妻ノ来ベキジセツガコテコヌカシテ マチカ子テナクアノ声  
ガ入ラビツクリサセル 郭公はうのゑのうゑ 餘材ヨウシ

おやよほし 但し 流る乃流ハヨウ  
うつせ

流のうりせみまむぢみぢれきさうりゆ神よまかろしむや

○浪ノウツ川ノ淵ヲスレハ 水玉ガトントマコトノ玉ガチルヤウナワイ

アノ玉ヲヒロウタナラ ホノ玉デハナイホドニ 袖へ入ウトシタナラ<sup>五</sup>チキニ  
消ルデアラウカ 餘材ヨウシ

かへし 玉生丸

ふのやうりまぬれてあひつゝまのやこれむむまをうつせむ

○半極ハ袖へ入ウトシタナラチキニキエルデアラウカト云ハシヤルガ デモ  
神ヲオイテオニ玉ヲウマウカ 神ヨリオニ玉ヲウマウ物ハナイハサテ  
スレヤ半極ノ袖へウツニデユレガサフレゴサルト云テワシガ袖へウツサツニ  
ヤレワシモヌヤウワサ おげよう 餘材ヨウシ

うゑ よみくしうらむ



あけうめふけのまゝへくとス〜ぬるまゝ〜かづきまはあひつ

○梅の花ハヤウクウイおヤマモナウあてニイサウテ目ニ常住スラレ

サウニモスエヌコカナソクセアドテスシカリサウナ香ハヨウニホウテサ

かふむげく

ほ〜ゆき

かづきぞと浪のまうふかさぐ〜もて風ゆく〜ふうはづむ玉

○海ニ浪ガ立テ水玉ノチウテキエルハ玉ノヤウナガソラホテ玉ヤト思ウテ

そ海ノ底ヘハイウテ取ウトスレモ浪ノ中デハドウモ手ニアタライデトラレヌ

ソシテ風ノクク夜ニテウド底ニアル玉ガウイテハシヅミウイテハシヅミスルヤウニスル

そむく花

今〜く〜ま〜〜あ〜る〜と〜ぶ〜う〜づ〜ひ〜も〜の〜あ〜が〜を〜あ〜り〜お〜び〜〜あ〜り

○モウ春ノアヒダハナニホドモナケレバソラ海リ多ウ思ウテ人ト目ジヤウニ

考モニシキサウナカホシテお思ニスルヤウナサウニスル

か〜と〜花む

ぬ〜やぶ

あ〜う〜〜も〜の〜あ〜い〜あ〜ろ〜〜を〜あ〜は〜し〜ら〜も〜あ〜ま〜〜と〜う〜終〜て〜思〜う〜ぞ

○をフタラウレイハズガヤニをモナガラモヤツハリワレデモサカナシイワイ

アハバマダふレヌサキカラハヤめル〜ラ思ウニヨウテサ

〜あ〜ら〜ば〜な

を〜の〜あ〜ぎ〜ら〜げ

あ〜〜〜び〜き〜あ〜ふ〜〜ち〜い〜あ〜ま〜ゆ〜〜を〜あ〜や〜ど〜り〜定〜め〜ぬ〜ま〜ふ〜〜と〜あ〜ら〜と〜

○山カラ立テハナシテイク雲ノトマリドコロノ定マラヌヤウナモノデトト

行末ノサドウナラウヤラシレヌ世ノ中ヂヤワイノ



とらとぬは本

とらとのつら

おけをらとぬ戸の本の伝きか

みより一おのよりの伝ふらうびゆる沫をうらぬのきあとなつむ

○吉野ノ池へウキテル水ノ沫ヲ人ハ玉ガ出テキエルトスルデアアラウカ

やまがきの本

よみくち

横井ノ秋云。山柿ハらひきくむらぐもぬる柿出で。きふ伝

濃柿とも。そや柿なり。又材小玉柿とらうももく。

秋ときぬ。今やまがきのきらむらぐもぬる柿出で。きふ伝

○秋ガキタコレハ風ノをサニガキノ蓋ガモウウケケヨクナクデカナアラウ

あふひら

かくがうり。あひら。ま。続。小。ぬ。く。と。う。け。し。と。思。ハ。ぎ。う。へ。き

○コホドニをりガレニナツタ人ヲドウニテウライト思ハズニ居ラケラウ思ハイデハ

人先ゆゑ。後。ふ。あ。あ。ひ。の。も。き。く。バ。コ。ウ。ツ。キ。あ。や。あ。ひ。ら。さ。ま。と。む

○人目ヲツクムユエニコレカラ後ニモレをフーガきウナツタナラウウケ

ハシラズニコチガウライノニナルデカナアラウ

くこふ

傍心遍略

ちりぬき。バ。ほ。ま。の。く。こ。ふ。ぬ。ま。を。ま。ひ。し。ひ。ま。と。よ。て。ふ。此

○花ハチウテシバ。後ニハ芥ニナツテシウテナシテモナイ物チヤニ

フヲエガテシセズニアハウナサテモア花ニヨウカナ

さ〜む

ほ〜申











○けぐりをうんすばをへき木テモアルイケ尾をがサキシタワイ  
波セバナルジイ木モ本夏ナルヤウ二年ヨリシタ秘かけ角モトウガ立身イ  
タス時そのモアレカト野ヒマスル候テガザリヌ竹材中の物の候ヤ

志のぶらま

きのとーらぶ

ふもみつふあししおふくさくハヤアひもつど花どちりり

○近石ナ山ガサニジヤウチウ嵐ク多里ノ花ハサ 咲テアルモナニ  
ワイ交テシマウワイ オササバのるれ候とろし

やまー

年、何つゆき

新とまのそとーやまぶらふーいりまをまきけどるまーもま

○新公ハ葉ノそと中トニテイタカラヌアウコラテハハサエケレド

ドウモ形ハんヤウガナイ

かーらび

よみびとまーび

子結云は暑堂の淨粋樂のゆふく長ぐもてる萩の枝を拵ッ  
く枯くるをぎげくろやふかぎくろまど。保氏物候もんくり。  
さぬがこまひのや。かーをぎくろまて。あも二の白かーを本毎ふと  
みまむを。萩の萩を拵ッ。深つて。あのでふまなまを。そ  
まふよつて。改をつ。あひらびし。

○蟬ノカラバスキステ、ド木モトメテオイテモ身ハドコヘカカレデイヌ



ルガ 以人間モテウドフニモデ 人ゴトニ死ヌレバ皆カラダヲ棺ノ  
中ヘトテオケルカシシノ玉シヒハドコトシテイヌヤラユクヘガシヌヤ  
ニナウテシマウハサカナシイコトヤ オクシラシ

かきおぐさ  
ふうやぬ

うむむのまふらうおぐさまむうつてふぐあもらうぬころも

○おむダイトオラスハ差ニテモスレバ心ガサルト云ナレバ一差ニスガカ  
リテドウニ心ガサウグシヤウジニをテサヘダタラヌヤウ立思心ヂヤモラ  
さがりあけ  
あうむのどしをぬ

花の色ハくぐ一さうらとをききごとかきもぐぐぞろはとをえける

○むの色ノ濃イハ多クサカリテワツカスガリナレコトアハ毎朝毎晩

ナニモクサツメルワイ 名多一サカリチモラウヤウニ謀ストモヨイコト

おぐさかけ  
あむむのど

おぐさけハおぐさかきもぐけとたふらささむぐけお名らりう  
つたおけおぐさむ。

いのちをいさむをいさむのむふくこまればおむびーらふたぐおぐの虫

○おへニ虫ハあつ余ヂヤト思ウテおニス片おニナリニクイハカナイ  
おチヤニヨツテ 難義ニ思ウテカナレサウニワク

かきおぐさ  
かむむのど

さよふけをねるおぐさけゆくおまかおむおまらうをむのやうれ  
○夜ガフケテモウ半分中モクテククアノ月ヲ東ノ方ヘ吹カセ秋ノ山ノ風ヨ







のちふりてゝ浪のきづくはまきねさびいさざらちをとるさび  
○舟ノカチへアタツタ浪ノ多クテキル糸ガ今ハ去ナバ花ガチルト  
思ハルトト下をチヤアレラドウシテをトスヌ者ガアラウダ  
をのさばらちとつたふらちとんほりたつておすこし

かゝるさび

わやのほりこ

かろふふらちとつたふらちとんほりたつておすこし  
○スレバアアル辛崎ニ人カ立テ井ルガアコハ今ニシニ何ッ浪ッ  
テイツカラアシテ居ルヤラ今マデニ浪ッタチラモ路ガアリクナ  
おナレバ浪ノ及バ後ッタ路モ妙ッテハナイワイ

何ッ路

浪のちあきかゝるさびいさざらちをとるさび

○浪ノおヨセテクルハニウドを散テクルヤウニスガハヤウニおヨセテ  
後へチウテクル浪ノ花ハア沖へサイタをガ沖ノ方カラチウテクルヤウスギヤ  
サテ花ヲサカスハ去ナレバ浪ノヨセテクルハ風ユキスレヤあつタメハ風  
ガ去ナレバカハウテアノヤウニ花ヲサカスカシラヌおすこしおすこし

かゝるさび

ほりこ

うをのちあきかゝるさびいさざらちをとるさび  
○オレガ黒イ髪ガ色ガカハウテシラガニウタカシラヌ後へウウタ  
新ラスレバウムリへニウ白ニ雪ガフツタ

よゝめかき



つゝもきのふふをきこばゆやをけいふをよとらうをく時をき  
○山里ニ住テ居レバ ジャウヂウ雲ノハレル時モナイ サウナウテサへ気  
ノウタ山中ヂヤニ 何トセイトテテハヤウニ雲サへケル時モナイツ  
かゝ野

くもみ糸

夏草のうへはちがふてぬるまのゆくかこのおきこがむう那

○拙者がオハテウドウへハ夏ノ草ガハイハエジゲウテアルヤライヤラ  
シメ又沼水ノヤウナモノデ世間ノ人ニモシラズ立オモエセ子バテウド又ツノ  
沼水ノ流ヒテウ取ノナイヤウニサテく心ユカヌコカナオモシヨウナイコカナ  
うつゝおま

源おどろん

結くれと月のうろののみやハゆるむりをむとちいづり成

○越前ノ木ハ秋ハ実ガナル物ヤガ月ノ中ナ桂ハ秋ガキタトテ実ガナル  
カ実ハナリハサタタ秋ハおヨリサヤカナ光ヲ花ノヤウニ四方ヘチラスガ  
リノイキヤモノヲツニ受ルテ秋ノ月ヲ格別ニ羨望スルハドウ云フゾイ

百和集

よみ人あつゝま

花びらふゆらびらびら〜風飛ぶバクそづくまがしとらハ思ふ  
○なト云物ヲバドレモカレモ皆 ありオホイニチラシテニウタヤツナレバ  
風ヲバオレハドレホドフツクニ思フツ タイテイ不思ニ思フコトハナイ

とらむねうし

あつゝま

まかを〜むら〜う〜ひちあ〜りせば秋々なるハか〜き〜ほ  
○ま〜あ〜ベツタリトフサガウテアル中ニセツテイク道ガナイナラバ 秋キ



夕乃が去りハスマイニ 暮ノ中ニモ乃ガアルデモハカヘレデアラウ  
おき火

みやくけようの

流シテ知ル源サドチヤカシメ又海川ナレバニシテ底ノ源サハイカホド

アルカシメガモ沖ノ源イモテ水ノ干ル時ガアツタナラ底ノ源サモんテ  
アラウカ

ちきり

大いふ里

のちきりのおくれくちきりぬるれど何じふおれぬこのことごとく

○後蔭ノオクシテハエタ苗デモムダニナラテシマイハセズニ秋ハヤツハリ  
実クテ粗ラアル田ノ縮ヤトサツ及デ居ルスレヤ學問デモナニテ  
モオワガケギヤト云テ為マイヤウハナイツヤ ちきり、白の流俗とん

ちきり、白の流俗とん  
ちきり、白の流俗とん

流俗とん

ちきり、白の流俗とん

○グレン目ニニアクカト思ウテ 花ノタニト咲テアル中ヲ分テイケバ  
花ニ目ガ移ツテコチ心ガサ花トイツレヨニアチコチトチウテイクヤウチ  
コ、ロモチガスル

を鏡ニのまをけをワカ







